放課後の児童生徒の居場所事業

自治体名

岩手県一戸町

学校数

小学校 6校　中学校 3校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

当町は、内陸北部に位置しており、津波等の被害は受けなかったが、地震によって地割れや土砂崩れが発生し、停電による畜産及び農作物への被害も含めると 8,000 万円あまりの被害があった。　　仮設住宅なし

～わんぱく子ども教室～

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
	1		200日	中央公民館

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
		○	○		（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

「わんぱく子ども教室」は中央公民館を活動場所として、平日に開設し、毎回約10名の児童が参加をしている。活動内容は、スポーツや宿題、自由遊び、読書、工作などで、その他にも学校行事の振替休日や長期休暇中に体験教室を行っている。

御所野公園博物館において、ものづくり体験や近隣の散歩コースへ出かけるなど地元に対する知識や関心を深める活動を積極的に取り入れている。

また、日常の活動の中でも、竹とんぼや、とちの実で笛を作るなどの昔遊びも取り入れている。

今後も地域活動を取り入れながら、児童の健全育成に努めたい。

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

震災による直接的な被害は少なかったが、停電や連絡が取れないなどの状況を体験し、改めて放課後の安全な居場所づくりや地域の人間関係づくりの重要性を認識した。こうした教訓をもとに、放課後の安全な居場所づくりや地域の人間関係づくりに日頃から取り組んでいく必要がある。

◇住民等からの要望・必要な取組

一戸町は総じて農村地域であり、他と比較するとそれほど核家族化は進んでいないものの、保護者が近隣市町村に通勤している家庭が多い上、自宅が集落から離れていたり、近所に子どもがいなかったりする児童もおり、人との関わりや体験活動の機会が減少してしまっている傾向も見られる。

そこで、子どもたちが安全で安心して活動できる居場所（拠点）づくりが必要であるとともに、自然、伝統工芸、民俗芸能、文化財、スポーツ・文化NPO、シルバー人材バンク等の豊富な人材・資源を活用し、体験活動の充実を図ることも求められている。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・コーディネーターは一戸町教育委員会臨時職員が担っている。

・学校は事業内容の理解と児童への周知を、行政は活動場所の調整、地域住民への周知、活動内容によって各種団体への依頼・連絡・調整等の役割を担っている。

・町立図書館や町の観光天文台を利用しての活動、町で開催する文化展への出品など各種施設やイベントと連携を図っている。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・お祭りの出店を作って遊ぶ「わんぱく祭り」の開催など、子どもたちが主体となって企画から反省までを行う活動を取り入れている。

・子どもたちがより本に親しんだり、図書館を利用したりするよう、読み聞かせを積極的に取り入れている

・地域の方々がよく出入りする場所で開催していることもあり、とちの実などの遊べるものや部屋を飾る装飾品などを持ってきてくださる。その際、気軽に声を掛け合ったり、遊んだりしながら交流を図っている。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

学校の授業日だけでなく、振替休日や長期休業中に体験教室を行うことで、家庭にとって安心できる場となっている。また、地元の施設や屋外での体験活動を取り入れることによって、より多くの人と関わったり、地域に対する関心を深め、良さを理解したりすることにつながっている。

◇課題や今後の展望

安全管理員の確保が毎年課題となる。また、安全管理員は子どもへの関わり方や体験活動の具体的な内容について悩みをもっている。各種研修会への積極的な参加を促すとともに、町独自でコーディネーターと安全管理員の研修会開催を検討していきたい。また、子どもへのかかわり方については学校とより密に連携を図れるよう行政からも働きかけていきたい。